

標本に基づく四国沿岸初記録のメギス科メギス
First specimen-based distributional records of Fire-tail Devil *Labracinus cyclophthalmus* (Teleostei: Perciformes: Pseudochromidae) from Shikoku

By

小枝圭太^{1*}・増本奏太²・西川璃久人²

Keita KOEDA, Kanata MASUMOTO and Rikuto NISHIKAWA

1. 黒潮生物研究所 〒788-0333 高知県幡多郡大月町西泊 560 イ
Kuroshio Biological Research Foundation, 560 Nishidomari, Otsuki, Hata, Kochi 788-0333, Japan
2. 宿毛市立沖の島小学校 〒788-0677 高知県宿毛市沖の島町母島 445
Okinoshima Elementary School, 455 Moshima, Okinoshima, Sukumo, Hata, Kochi 788-0677, Japan

Abstract A single species, *Labracinus cyclophthalmus* (Müller & Troschel, 1849), is known for the genus which belongs to Pseudochromidae, and characterized by having two dorsal-fin spines, 52–58 longitudinal scale series, and 47–54 pored lateral-line scales in anterior part. Several individuals of *L. cyclophthalmus* were currently hooked from Moshima Port at Okino-shima Island, Kochi Prefecture, southwestern Shikoku, and one of them was deposited as a scientific collection. Although this species is common in the Ryukyu Archipelago, only few records were known from the mainland of Japan. The present voucher specimen and the hooked individual represent the first specimen-based records of the species from Shikoku.

キーワード: スズキ目・稀種・魚類相・高知県

はじめに

メギス科魚類は世界で 20 属約 120 種が知られる多様性の高い分類群であり、主に岩礁域やサンゴ礁域に生息する(吉田 2018)。体色はさまざまに美しく、観賞魚として人気の高い種も多い(吉田 2018)。メギス属はメギス *Labracinus cyclophthalmus* (Müller & Troschel, 1849) のみで構成され、背鰭棘数が 2、縦列鱗数が 52–58、および前方有孔側線鱗数が 47–54 であることから同科他属と識別される(Gill 2004; 吉田ほか 2013)。本種は日本からオーストラリア北部までの西太平洋に広く分布するが(Gill 2004)、国内においては琉球列島でのみ数多くみられる(林ほか 2013)。その他の海域においては、八丈島や和歌山県串本からのわずかな

記録に限られ(福田・御前 1992; Senou et al. 2002)、四国沿岸域からの標本に基づいた記録はない。2020年9月20日に高知県宿毛市沖の島の母島港において複数個体のメギスが採集され、このうち1個体を標本とした。これは、本種の四国周辺海域からの標本に基づく初めて記録となるため、ここに報告する。

方法と材料

標本の計測・計数方法は Gill and Edwards (2002) にしたがった。各形質を電子ノギスにより0.1 mm単位で計測し、標準体長に対する百分率で示した。標準体長はSL (standard length) と表記した。記載は高知県沖の島産の標本に基づく。生鮮時の色彩の記載は、固定前に撮影された標本のカラー写真に基づいた。本報告に用いた標本は、黒潮生物研究所 (KBF) に保管されており、上記の生鮮時の写真は同研究所のデータベースに登録されている。

結果

Labracinus cyclophthalmus (Müller & Troschel, 1849)

メギス (Fig. 1)

標本 KBF-I 1334、134.6 mm SL、高知県宿毛市沖の島母島港(32°44'21"N, 132°32'41"E)、2020年9月20日、釣り、増本奏太。

記載 背鰭2棘25軟条;臀鰭3棘14軟条;胸鰭18軟条;腹鰭1棘5軟条;尾鰭17軟条;体側縦列鱗数57;前方有孔側線鱗数56;後方有孔側線鱗数21;側線間鱗数6;臀鰭起点水平鱗列数28;背鰭前方鱗数30;前鰓蓋鱗列数7;尾柄鱗数32;鰓耙6+12;擬鰓数17。体各部測定値のSLに対する割合(%):背鰭起部における体高31.9;最大体高35.2;体幅15.5;頭長28.9;吻長9.0;眼窩径6.8;両眼間隔6.8;上顎長12.0;尾柄高15.6;尾柄長9.1;背鰭前長32.8;臀鰭前長61.2;腹鰭前長34.9;背鰭第1軟条長9.8;背鰭第3軟条長11.9;背鰭基底長64.0;臀鰭第1軟条長10.3;臀鰭第3軟条長12.5;臀鰭基底長31.1;尾鰭長26.4;胸鰭長24.7;腹鰭長21.2。

体はやや細長く、側扁する。尾柄部は高く、尾柄高は最大体高の約1/2。頭背縁は吻端から背鰭起部にかけてゆるやかに曲がり、眼の後方でわずかに突出する。眼の外縁は頭背縁より突出しない。口裂は傾き、下顎は上顎より突出する。上顎後端は眼の前端をわずかに越える。唇は非常に厚く、眼径の1/2以上。前後鼻孔は円形に開口し、眼の直前に位置する。背鰭と



Figure 1. Fresh specimen of *Labracinus cyclophthalmus* collected from Okino-shima Island, Kochi, Japan. KBF-I 1334, 134.6 mm SL.

臀鰭は全体にやや高く、体高の 1/2 程度、基底は長く、外縁は欠刻しない。背鰭と臀鰭の棘は軟条と比較して短く、1/2 以下。背鰭と臀鰭の軟条は長さに差が少ないものの、背鰭第 23 軟条と臀鰭第 12 軟条がそれぞれ最長。腹鰭は上方の軟条が長く、後端は背鰭第 8 軟条起部直下。腹鰭はやや伸長するが、たたんでも後端は肛門に達しない。尾鰭は円形。

鮮時の体色—体全体は鮮やかな赤色で、頭部から体側背側にかけての鱗の中央に暗緑色小斑がある。吻端から眼の周囲を通り、上顎中央に達する緑色 U 字状帯がある。両唇と下顎部はうぐいす色。背鰭は鮮やかな赤色で、基部付近の鰭膜被鱗域は暗色で、無鱗域には暗赤色縞模様がある。臀鰭は白みがかった赤色で、外縁は白色、鰭膜には赤色縞模様がある。胸鰭は鮮黄色の半透明。腹鰭は前部が鮮やかな黄色で、後部がオレンジ色。

背鰭と臀鰭、腹鰭の鰭条はオレンジ色で、鰭膜は黄緑色。背鰭と臀鰭の縁辺は白色。胸鰭は鰭条がオレンジ色で、鰭膜は半透明。尾鰭は鰭条、鰭膜ともにオレンジ色。尾鰭は鮮やかな赤色で、後縁は白色。

分布 本種は日本からオーストラリア北部までの西太平洋に広く分布する(Gill 2004; 吉田ほか 2013)。台湾や日本国内の琉球列島のサンゴ礁域ではごく普通にみられるが(林 1997; 林ほか 2013; Koeda 2019)、その他の海域においては八丈島(Senou et al. 2002)や和歌山県串本(福田・御前 1992)からのわずかな記録に限られる。本研究により高知県沖の島からも確認された。



Figure 2. Freshly collected individual (not retained) of *Labracinus cyclophthalmus* at Moshima Port of Okino-shima Island, Kochi, Japan (collected by R. Nishikawa).

備考 高知県沖の島から得られた標本は、背鰭棘数が2、体側縦列鱗数が57、および前方有孔側線鱗数が56であることが、Gill and Edwards (2002) や吉田ほか(2013)の示した *Labracinus cyclophthalmus* の特徴によく一致した。本種は国内において琉球列島ではごく普通にみられるものの、他の海域においては八丈島(Senou et al. 2002)や和歌山県串本(福田・御前 1992)からのわずかな記録に限られる。蒲原(1960)は *Dampiera spiloptera* (Bleeker, 1853) オキナワメギス[Gill (2004) により *L. cyclophthalmus* 新参異名とされた]を沖の島から報告しているものの、証拠となる標本は示されていない。このことから、高知県沖の島沖から得られた標本は四国沿岸からの標本に基づく初めての記録となる。なお、今回標本が得られた沖の島母島港の消波ブロックの周囲において、本種はごく普通に釣獲される(Fig. 2; 増本・西川による観察)。沖の島は、四国南西部においても沖合を流れる黒潮に物理的にとりわけ近く、一年を通じて海水温も高く維持されるため、同島周辺の海域ではサンゴ群集がよく発達し、熱帯性の魚種が数多くみられる(蒲原 1960)。本種は国内における主たる分布である琉球列島においても消波ブロックの周囲で優占的にみられる魚種であることから、同島の港においては琉球列島に近い生物相が形成されている可能性が示唆された。

謝辞

本研究をおこなうにあたり、沖の島小学校の川田典男氏、山上真奈美氏、増本旺史氏、増

本帆花氏には採集や原稿作成に際し便宜を図っていただいた。また、鹿児島大学総合研究博物館の和田英敏氏には文献を提供いただいた。多大なるご支援を賜った黒潮生物研究所理事長の深田純子氏、ステラケミファ株式会社の橋本亜希氏、有限会社ブルーハーバーの和田康嗣氏ならびに黒潮生物研究所の目崎拓真氏、戸篠 祥氏、古井戸 樹氏、喜多村鷹也氏、山下 薫氏、長岡知香氏に謹んで感謝の意を表す。本研究の一部は 2020 年度独立行政法人環境再生保全機構地球環境基金の助成を受けておこなわれた。

引用文献

- 福田照雄・御前 洋 (1992) 串本海中公園センターで記録された魚類一覧 (1). 串本海中公園マリンバビリオン, 21 (5): 2-5.
- Gill, A. (2004) Revision of the Indo-Pacific dottyback fish subfamily Pseudochrominae (Perciformes: Pseudochromidae). *Smithiana Monographs*, 1: 1-214, pls. 1-12.
- Gill, A. and Edwards, A.J. (2002) Two new species of the Indo-Pacific fish genus *Pseudoplesiops* (Perciformes, Pseudochromidae, Pseudoplesiopininae). *Bulletin of the Natural History Museum London (Zoology Series)*, 68 (1): 19-26.
- 林 公義 (1997) メギス. P. 281. *In*: 岡村 収・尼岡邦夫(編)山溪カラー名鑑 日本の海水魚. 山と溪谷社, 東京.
- 林 公義・藍澤正宏・土居内 龍 (2013) メギスコ. Pp. 806-810, 1973-1975. *In*: 中坊徹次(編)日本産魚類検索 全種の同定, 第三版. 東海大学出版会, 秦野.
- Kamohara, T. (1957) List of fishes from Amami-Ōshima and adjacent regions, Kagoshima Prefecture, Japan. *Reports of the Usa Marine Biological Station*, 4 (1): 1-65.
- 蒲原稔治 (1960) 高知県沖ノ島及びその付近の沿岸魚類. 高知大学学術研究報告, 9 (3): 15-30.
- Kamohara, T. & Yamakawa, T. (1965) Fishes from Amami-Ōshima and adjacent regions. *Reports of the Usa Marine Biological Station*, 12 (2): 1-27.
- Koeda, K. (2019) Family Pseudochromidae. P. 672. *In*: Koeda, K. & Ho, H.-C. (Eds.) *Fishes of southern Taiwan*. National Museum of Marine Biology & Aquarium, Pingtung, Taiwan.
- Senou, H., Shinohara, G., Matsuura, K., Furuse, K., Kato, S. & Kikuchi, T. (2002) Fishes of Hachijo-jima Island, Izu Islands Group, Tokyo, Japan. *Memoirs of the National Science Museum*, 38: 195-237.
- 吉田朋弘 (2018) メギスコ. P. 244. *In*: 中坊徹次(編)小学館の図鑑 Z 日本魚類館. 小学

館, 東京.

吉田朋弘・中村千愛・本村浩之 (2013) 鹿児島県のメギス科魚類相. *Nature of Kagoshima*,
39: 31–45.

(2020年11月19日受付; 2020年12月28日受理)